

平成 30 年度道民カレッジ「ほっかいどう学」地方創生塾（2 回目）

2 年目第 2 回（塾長：草野竹史氏招聘）

- 1 日 時 平成 30 年 12 月 18 日（火）18:00～20:20
- 2 会 場 ノーボーダーズカフェ【目梨郡羅臼町本町 4 丁目】
- 3 参加者 7 名（羅臼町活性化ワーキンググループメンバー）
- 4 内 容 **（1）自己紹介**

「①氏名 ②仕事 ③最近の出来事 ④WG のきっかけ」を A4 用紙に書きあげ一人ずつ発表した。

（2）ワークショップ【Good・More・Try】

本会メインの活動である平成 30 年 7 月 20 日（金）～22 日（日）に開催された「第 5 回しれとこ羅臼こんぶフェスタ」を効果的に振り返る手法として実施された。

フェスタを実施する（今後も続けていく中で）、関わっているメンバーの現在の意識・関わってみての行動変容（やりがい、生きがい、苦労面、負担感がどのように変化してきたか等）を探る機会とすることがねらい。

“Good・More・Try”それぞれのポイントを、ポストイットを用いての意見交流を順に行っていく手法。

（3）振り返り

明日から実践したい（できる）ことを一人一言形式で宣言した。

【詳細】

（1）ワークショップ

Good・・・イベントを実施して良かった点、獲得したこと等

- ・来場者数増 3
- ・出店者増（メニュー増えた！新企画も！） 3
- ・「今年昆布フェスタいつ？」と町の人から聞かれるようになった。
- ・新しい企画／手ぬぐいとカレー／変化・進化
- ・地元の幼稚園が事業として参加 2
- ・他



More・・・改善したら良い点、付け加えたいこと、前進させたいこと等

- ・フェスタを行うための WG ではない。（フェスタは手段）
- ・人手が不足している／時間帯によってスタッフが足りない／緊急事態がなかったが…
- ・昆布だけにこだわりすぎ？（町民からの意見）
- ・準備の開始を早めるべき
- ・もう少し参加意欲が出るしくみ。一人ひとりの役割・担当など。
- ・終了後の振り返りを次回に向けて。
- ・コンプリートの景品がここ数年同じもの。
- ・午後になると売り切れの食べ物が出てくる。
- ・他



Try・・・チャレンジしたいこと等

- ・ 昆布漁師へのもっと還元できること（浜からの宅配サービス窓口）
- ・ 地元小学生が描いた絵をクリアファイルにしたい（コンプリート景品）
- ・ 地元幼稚園との関わり／小学生が授業の素材としての活用を。（既に羅小から問い合わせ有）
- ・ もっと遠くまで（多方面に）宣伝したい。
- ・ 違う開催場所を模索すべき。（もっと効果的なところ、住民理解が得やすい場所）
- ・ 他

(2) 振り返り ※一人一言の宣言

- 学校と連携していけるように、つながりをWGの一員としてつくる！
- 来年のフェスタは町外のファミリーを招待する（一人1組）
- まずは月1でも交流の場を設ける／月に1度はメンバーと話す
- 地域に根づく
- 人と関わる
- 本気



- 5 成果
- ・ 第5回フェスタの振り返りが出来ていなかったため、終了して少し期間が空いたが良い機会となった。参加者は少なかったが、それぞれの思いと意見を共有することができた。
 - ・ フェスタ当日は草野塾長にお越しいただき、メンバーの聞き取りや活動の様子を実際に見てもらったことで、数々のイベントに関係する塾長の率直な意見を聞くことができた。「メンバーはいきいきと楽しんで運営している」「昆布体験コーナーは学習要素が強く、昆布に触れる機会のない者には大変良い。運営者の伝えたいことが感じられる。」「昆布カレーイベントは純粹楽しかった。料理もおいしい」等。
 - ・ グッドポイントとウィークポイントをあげていく手法であるが、全てポジティブワードで意見をあげていく事になるため、“悪い点”とされることも改善案に置き換えることで、来年のフェスタへつながるキーワードとして共有された。
 - ・ 「何かを行うために集まるのではなく、何かするために集まる」との意見から、毎月例会案が塾の翌日にあげられた。毎月10日前後は、人数問わず顔を合わせ情報共有・近況報告を行うこととなった。
- (1月10日にノーボーダーズカフェで実施済。羅臼町教育委員会で計画している「学び合い人材バンク」の提案や羅臼人の気質等、様々な情報交換や世間話が行われた。2月は新年会、3月は草野塾長を招聘予定)

